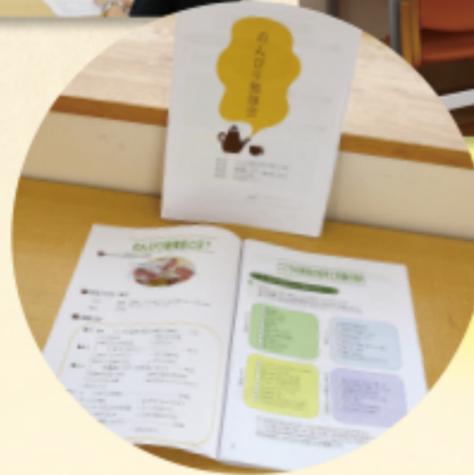


家族心理教育プログラム



のんびり勉強会



心理社会療法の具体例

のんびり勉強会

入院患者さんを対象に、作業療法の二環として、のんびり勉強会というプログラムを行っています。週1回の講義で、精神疾患についての正しい理解や、薬についての知識、医療制度や社資源度の理解など、様々な内容を用意しています。1クール全5回で、5週間で完結するプログラムになっています。

のんびり勉強会は多職種で取り組んでいるプログラムです。作業療法士が中心となり、医師、薬剤師、精神保健福祉士、公認心理師、管理栄養士が講師を務めています。精神保健福祉士の会では、ピアサポーターの方にもお話をしてもらっています。のんびり勉強会を通じて、①安心して入院生活を送れること、②退院後、少しでも楽に生活できること、③治療へ積極的に参加するようになること、を指して取り組んでいます。

ファミリーグループ

統合失調症の患者さんの家族向けにファミリーグループという家族心理教育プログラムも実施しています。①医師による統合失調症の疾患や治療に関する講義のほか、作業療法士による作業療法の説明や

精神保健福祉士による社会資源の話を行う回、②公認心理師による当事者に対する家族のかかわり方についての講義の回、という月1回1クール全2回で構成されます。また、精神科救急病棟の看護師も毎回参加するなど、ファミリーグループも多職種チームで取り組んでいます。

ファミリーグループには、毎回3〜5組のご家族が参加されています。どちらの会でも、後半の15〜30分で家族同士によるグループワークを行っています。これにより、家族間での情報共有やつながりを持ってもらうことを期待しています。

このように、当院では様々な体制、多職種チームによる取り組みを行うことで、京都府南部およびその近隣の精神科救急の中心的役割を担うべく日々努力しています。「精神科救急医療が必要な時は宇治おうばく病院で」と思っていただけのように、これからも走り続けます。



大月 祥宏 (おおつき よしひろ)